

歴博 暮らしの植物苑だより

第97回「暮らしの植物苑観察会」 4月29日(日) 13:30~15:30

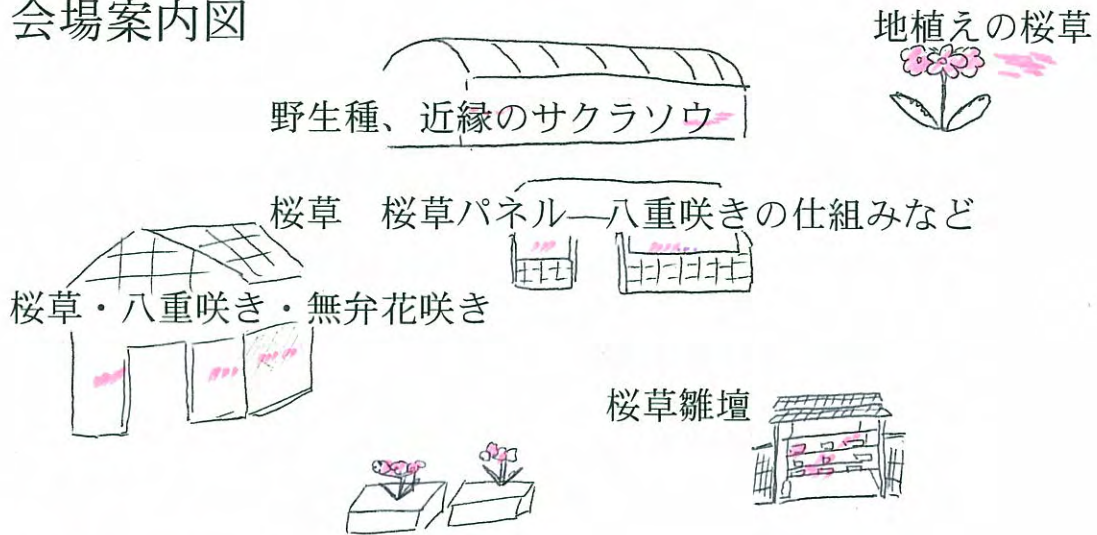
「暮らしの植物苑と下総台地の森」 鈴木三男 (東北大学植物園)

4月29日は歴博みどりの日 入苑料無料

暮らしの植物苑今週のみどころ <http://rekihaku.ac.jp>

伝統の桜草展

会場案内図



桜草の見方

桜草は目の高さでご覧いただくと、花の美しさがよくわかります。
 入り口近くの桜草雛壇は江戸時代末期にはつくられた、桜草の鑑賞方法です。
 桜草を5段30鉢から35鉢に並べ、色を斜めに配列する鑑賞方法です。晴れて
 いるときはいすを出しておきますので座って桜草をご覧ください。
 苑内のみどころ



オオタザクラ (バラ科サクラ属)

白川村本覚寺で発見された、花びらが90枚以上、
 雌しべが20本にも及ぶオオタザクラ。去年は花
 は開花しませんでした。今年は地植えにし、木も
 大きくなりました、つぼみもたくさんつきました
 ので、楽しみです。



エゾユズリハ（ユズリハ科ユズリハ属）
北海道や日本海側の多雪地方に分布する矮星の常緑木。写真は雌花で、1本の雌しべが良くわかります。苑内にはほかにユズリハがあり、こちらは常緑高木です。ユズリハは縁起物の木として、お正月に葉を注連縄などにさしたりします。



タブノキ（クスノキ科タブノキ属）
常緑高木で、暖帯の沿岸地によく生育します。花は円錐花序をつくり淡黄緑色の両性花で、花被片が6枚、雄しべが2本、雌しべが1本が見えます。クスノキのようににおいはありません。樹皮を乾燥して粉末にし、練り上げて線香などの製造に用いられました。



ハナズオウ（マメ科ハナズオウ属）
街中を歩くと、濃い桃色の花が枝いっぱい咲いているので、よく目立ちます。中国原産の植物で、鑑賞用として日本に入ってきました。葉が出る前に花が咲きます。花は2cmほどの蝶形花ですが、弁が3枚反り返っているのではほかのマメ科の花と少し違います。



ムベ（アケビ科ムベ属）
大きな果実をつける常緑のつる性木本です。花は雌雄同株で白く花弁に見えるのはがく片で、6枚あります。果実はアケビのように開くことはありません。



アオキ（ミズキ科アオキ属）
ヒマラヤから日本にかけて分布する常緑低木で、耐寒性、耐陰性があります。雌雄異株です、冬に赤い実をつけるので、世界的に庭木として栽培されています。写真の右は雄花で左は雌花で、12月頃には赤に実が見られます。

